



2022年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	医療通訳応用 I		(TCM219)
講義名（コード）	TCM_医療通訳応用 I		(TCM219)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	日中医療通訳コース	単位数	4
授業担当者	伊東かつみ	時間数	60
成績評価教員	伊東かつみ	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業であ	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	医療従事者として現場で即戦力となる確かな知識と技術を持ち、異文化に対する理解及び、通訳者として最低限度の言語運用力とコミュニケーション力を身につけた人材になる。
全体の内容と概要	検査内容の理解と逐次通訳に重点を置き、基本的な診察に対応できるような訓練をする。チームに分かれて、他の学生の知識や経験を共有し競い合いながら、医療通訳の知識と現場での対応力を身につける。毎回点呼の時の一言、短文の翻訳を行う。
授業時間外の学修	指定した患者と医師の会話文（日本語と中国語）の日本語文を読み、中国文を日本語に翻訳した文とともに録音する。 中国語文は日本語に翻訳してチャットで送る
履修上の注意事項等	授業中のゲームやクイズは真剣に取り組むこと。発言、質問、宿題提出など授業中に獲得した個人の点数は平常点として、考慮する、間違いから学ぶことを理解し、積極的に発言すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
---	------	------

1 4. 20	各診療科について、検査を内容、検査の事前注意、患者の症状、患者の痛み、苦痛、苦悩、注意点などから理解。 内科、外科、整形外科、循環器、消化器内科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、産婦人科、精神科、眼科、耳鼻咽喉科、小児科から 選択	各診療科の内容理解、どんな検査をするか、通訳をする場合にどんなことに注意すべきか、 方法；3つのチームに分かれて、討論後発表 及びロープレ A①自分達が掛かったことの有る診療科を選ぶ【診療科が重ならないよう注意】 ②その時の医師との対応の内容とその感想 ③当時の状況を再現、患者、医師、通訳でロープレ B①掛かったことのない診療科を講師相談して決定 ②よくある症状をチームで調べて、まとめる ③まとめた内容と想定した状況を発表、 ④想定される会話を患者、医師、通訳でロープレ ；発表、ロープレ後、他のチームが質問。 良いところ、間違えた表現等を学生から提出 講評；点数をつける。文法、発音のまちがいを解説、 良い表現と類似表現等を解説
2 4.27	検査について 症状から検査種類を理解、事前説明、検査の手順、注意事項等の理解 ①胃カメラ ②大腸内視鏡 ③肺機能検査 について特に詳しく、理解し、必要な翻訳能力を育成する	検査の理解 方法；3つのチームに分かれて、討論後 発表 A 指定検査項目①レントゲン検査、②CT検査 ③エコー ①検査の目的 ②どんな症状の時に検査するか ③検査前の注意事項 ④検査の手順、検査時の注意点 B●自分達が受けたことのある検査を優先して選ぶ ①胃カメラ、② 大腸内視鏡 ③ 肺機能検査 【重ならないように講師と相談】 ①検査の目的 ②どんな症状の時に検査するか ③検査前の注意事項 ④検査の手順、検査時の注意点 ⑤その時の医師との対応の内容とその感想 ⑥当時の状況を再現、患者、医師、通訳でロープレ ●受けたことが無い検査 ①検査の目的 ②どんな症状の時に検査するか ③検査前の注意事項 ④検査の手順、検査時の注意点 ⑤よくある症状をチームで調べて、まとめる ⑥まとめた内容と想定した状況を発表、 ⑦想定される会話を患者、医師、通訳でロープレ ；発表、ロープレ後、他のチームが質問。 良いところ、間違えた表現等を学生から提出 講評；点数をつける。文法、発音のまちがいを、と解説、 良い表現と類似表現等を解説
3 5.11	検査内容の翻訳練習 日本語の発話練習と翻訳練習の州 発性を促進する	①胃カメラ、 ②大腸内視鏡 ③肺機能検査 のテキストを ①講師の読みを聞く、②シャドーイングする。③チームで日本語読みと中国語翻訳を交代で練習 チームで練習して、日本語を聞いてすぐに中国語に訳す練習をする。

4 5.18	日本語をスムーズに話せ、聞いた日本語を中国語で翻訳できる即答能力を身につける	前回の続き A①胃カメラ、②大腸内視鏡 ③肺機能検査 のテキストを ①講師の読みを聞く、②シャドーイングする。③チームで日本語読みと中国語 翻訳を交代で練習 チームで練習して、日本語を聞いてすぐに中国語に訳す練習をする。 難しい処を解説しながら実施。 B理解が難しい、翻訳が難しい言葉から関連した解説をする
5 5.25	診察でよく使う表現方法の訓練、と実践練習	A 症状の表現練習内科；胃腸炎； ①下痢症状の説明、便の状態を10こ表現する、 例；便秘、水下痢、軟便、色、硬さ、水分量、血が混じっている。 ②吐き気 5つの症状以上表現する 例；吐瀉、水を吐く、胃液を吐く、血を吐く、吐きたいが吐けない ③痛みの表現 6つ以上の腹痛を表現、 ④頭痛、5つ以上の表現 例；割れるような痛み、ズキズキ、キリキリなど ⑤かゆみの表現；掻いた後の皮膚の状態を5つ以上表現 ⑥アレルギーの症状を5つ以上表現 ⑦しびれの表現5つ以上 例痛い、無感覚、ビリビリ、じんじん 以上のクイズと体を使った練習の後、 B チームごとに作戦を練る 症状が複雑な患者にを設定して練習 患者と通訳、医師をロープレで発表。その対応を競う。 C 模擬練習Ⅲ、自由対話形式、 A のパターン、腹痛 B のパターン脳梗塞
6 6.1	実践練習、 模擬通訳演習Ⅱ	総合案内、内科、呼吸器科、整形外科、精神科、産婦人科、小児科、皮膚科の 220ページから252ページまで 8つの診察内容を練習 各チーム2つの診療科を選び、 (重複しないように相談) A ①各チームで読み合わせ、 ②日本語は中国語に、中国語は日本語に変換する準備をする ③読む練習をして、①段落ごとの発表者を決める 日本語と中国語を読む人は別、聞いたらすぐに翻訳できるようにする、 練習の後各チームが1つの診察を発表、 討論、良いところ等を発言 B 2回目の発表はノートを見ないでやる。 発表後、感想、意見交換
7 6.8	テスト。講師が演じる患者と医師の 通訳をする	まず、前回の復習、時間が足りない処を補足。 講師が4つのパターンを用意し、1人、3分くらいでテストをする。
8 6.15	課題の提出	録音した文に対して、録音と書面の翻訳で提出
9	実際の医療現場のさまざまな場 面に対応して通訳できる。	上部内視鏡検査、今までの復習

10	実際の医療現場のさまざまな場 面に対応して通訳できる。	肺機能検査、今までの復習
11	実際の医療現場のさまざまな場 面に対応して通訳できる。	腹部エコー検査、今までの復習
12	実際の医療現場のさまざまな場 面に対応して通訳できる。	ホルター心電図検査、今までの復習
13	実際の医療現場のさまざまな場 面に対応して通訳できる。	大腸内視鏡検査、今までの復習
14	実際の医療現場のさまざまな場 面に対応して通訳できる。	CT 検査、造影CT 検査、産科医療補償制度、今までの復習
15		テスト対策

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	「医療通訳」一般財団法人 日本医療教育財団 著（厚生労働省配布）
参考文献・資料等	医療通訳学習テキスト
備考	